

⑬ Preference Judgement in Comprehending Conversational Sentences Using Multi-Paradigm World Knowledge

T.Ukita(東芝, 日本)

発表要旨

質問応答システムの開発におけるユーザ発話の解釈を考える際に、曖昧さの解消は、もっとも難しい基本的な問題であろう。本稿は、目的分野の多様な模範的な知識表現を利用して会話言語理解の枠組について記述する。知識表現システムを基に、プロシジャーは、先立つ文脈の内容との因果関係を検証し、解釈の候補のための選択を評価する。この因果関係は解釈に、不足した情報を補ったり、肯定的または否定的な説明を与えたりすることに利用する。このプロシジャーは、すでに実験用の質問応答システムでインプリメントされている。

質疑応答

質問：文脈の利用についてお聞きしたい。文脈について話したが、文脈はシステムの中でどういう形で表現されているかについては言わなかったが。

回答：今後の課題の問題点で述べたが、文脈を形式表現で表現しない。いまのところは、文脈から候補参照のために情報を取っただけだ。文脈の記述は今後の大きな課題だ。

質問：Schemataは文脈を表現するが、特定のschemataが入力文に対してどのようにしてトリガされるかを教えてください。

回答：トリガリングについての概念がないが、システムはまだ小さいから、全てのSchemata triggerは固定されている。入力文と一致するschemataを探索することがシステムのトリガリングです。